



環境活動レポート

No.11

(2016年度版)

2017年9月22日発行

有限会社 大宮工機

<http://www.ohmiyakouki.com>

取組期間：2016年3月～2017年2月

経営理念

“私達は真心を大切にし、地域の産業発展と環境保全に貢献します。”

経営方針

1. お客様の満足を第一に考え、全社員が一丸となって行動します。
1. 安全を最優先に活動し、社員および関係者のしあわせを追求します。
1. 企業活動を通して互いに学びあい、成長・発展します。

環境方針

当社の経営理念および経営方針に基づき、持続可能な循環型社会の構築に貢献できる企業でありたいと願い、その実現のために努力します。

- ① お客様へ、できるだけ環境にかける負荷が少ない商品を提供するように努めます。
- ② 濁水処理設備の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。
- ③ 沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、「海の種」の協力により養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組みます。
- ④ オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
- ⑤ 使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
- ⑥ 化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。
- ⑦ 持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。
- ⑧ 環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。
- ⑨ 全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。

2006年12月1日制定

2014年12月2日改訂

2016年11月7日改訂

有限会社 大宮工機

代表取締役 宮城靖一

【1】 事業活動の概要

1) 事業所名及び代表者氏名

有限会社 大宮工機

代表取締役 宮城靖一

2) 所在地等

本社：沖縄県島尻郡南風原町字宮平 631 番地

電話：098-889-6166 FAX：098-888-3424

ホームページアドレス：<http://www.ohmiyakouki.com>

宮平A ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字宮平 492-8

宮平B ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字宮平 791-3

友寄ヤード：沖縄県島尻郡八重瀬町字友寄 109-11

山川ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字山川 286 番地 18

駐車場ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字宮平当間原 651 番地 1

3) 事業の内容

- 建設機械のレンタル・販売・修理
- 赤土対策・濁水処理事業
- レンタカー事業

4) 事業年度

3月1日から翌年の2月末日まで

5) 事業の規模

表1. 事業の規模

活動規模	単位	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
		2012.3～ 2013.2	2013.3～ 2014.2	2014.3～ 2015.2	2015.3～ 2016.2	2016.3～ 2017.2
売上高	百万円	351	354	376	368	384
社員数	人	27	29	29	28	31

※ 社員数は年度末時点での人数とする。

6) 対象範囲

全組織、全活動

【2】環境目標とその実績

下記①～②より、目標値を設定した。

- ① 各項目とも売上高（百万円）当たりの量で目標値を設定する。
- ② 過去 3 年間の実績値より、それぞれの項目で最も低い値を基準値として定め、その値より 1%ずつ下回ることを目標とする。

※購入電力による温室効果ガス排出量は、エネルギー投入量で目標設定しているため、目標値は設定しない。

表 2 に過去 3 年分の実績値と ‘16 年度～’18 年度の目標値を示す。

表 2. 過去 3 年間の実績値と目標値

項目		単位	'13 年度	'14 年度	'15 年度	基準値	'16 年度 目標値 (基準値 -1%)	'17 年度 目標値 (基準値 -2%)	'18 年度 目標値 (基準値 -3%)
	売上高	百万円	354	376	368				
総エネルギー投入量	購入電力	MJ/百万円	769	689	710	689	682	675	668
	化石燃料	MJ/百万円	10,792	9,714	9,293	9,293	9,200	9,108	9,015
総物質投入量	紙資源投入量	kg/百万円	0.701	0.739	0.701	0.701	0.694	0.687	0.680
水資源投入量		m ³ /百万円	2.331	2.338	2.239	2.239	2.217	2.194	2.172
温室効果ガス排出量	購入電力 (排出係数)	kg-CO ₂ /百万円	67.1 (0.858)	57.2 (0.816)	57.9 (0.802)	57.2			
	化石燃料	kg-CO ₂ /百万円	735	661	632	632	626	620	613
廃棄物等総排出量	一般廃棄物 (再生利用)	kg/百万円	4.189	2.934	4.087	2.934	2.904	2.875	2.846
	一般廃棄物 (焼却発電)	kg/百万円	2.559	2.473	2.905	2.473	2.449	2.424	2.399
	産業廃棄物 (再生利用)	kg/百万円	46.960	151.170	70.109	46.960	46.491	46.021	45.552
	産業廃棄物 (単純焼却)	kg/百万円	37.514	42.367	36.957	36.957	36.587	36.217	35.848
総排水量		m ³ /百万円	2.331	2.338	2.239	2.239	2.217	2.194	2.172

表3に目標値と結果及び評価について示す。

表3.目標値と結果及び評価

項目	単位	目標値	'16年度 結果	結果 (±%)	評価
総エネルギー投入量	購入電力	MJ/百万円	682	722	5.9 ×
	化石燃料	MJ/百万円	9,200	8,461	△ 8.0 ○
総物質投入量	紙資源投入量	kg/百万円	0.694	0.695	0.3 ×
水資源投入量		m ³ /百万円	2.2	2.4	6.6 ×
温室効果ガス排出量	購入電力	kg-CO ₂ /百万円			
	化石燃料	kg-CO ₂ /百万円	626	576	△ 8.0 ○
廃棄物等総排出量	一般廃棄物(再生利用)	kg/百万円	2.9	4.0	38.6 ×
	一般廃棄物(焼却発電)	kg/百万円	2.4	2.8	14.6 ×
	産業廃棄物(再生利用)	kg/百万円	46.5	99.5	114.0 ×
	産業廃棄物(単純焼却)	kg/百万円	36.6	41.7	13.9 ×
総排水量		m ³ /百万円	2.2	2.4	6.6 ×

【3】主要な環境活動計画の内容と取組結果の評価

環境方針①

方針	2016年度の環境活動計画	2016年度の取組結果と評価
お客様へ、できるだけ環境にかかる負荷が少ない商品を提供するように努めます。	<p>(1)発電機(出力15~60kVA)の内、極超低騒音型が占める割合を90%以上を維持する。</p> <p>(2)レンタル商品のインバータ発電機やLEDライト等を古い発電機やライト類を入れ替えて増機したい。</p> <p>(3)休憩ハウス・友寄ヤードのハウスの照明をLEDへ入替を検討する。</p>	<p>2016年度は、極超低騒音型の発電機を7台廃棄し3台購入したことにより、全発電機に占める割合が目標値(90%)を維持することできた。インバーター式発電機も5台増機した。</p> <p>また、消費電力が水銀灯500Wの1/10の50WであるLEDライトも85台増やすことができた。ハウスの照明については、入替できず次年度に再検討する。今後も環境にかける負荷が少ない商品を導入していきたい。</p>

環境方針②

方針	2016年度の環境活動計画	2016年度の取組結果と評価
濁水処理設備の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。	(1)2015年度の濁水処理設備保有台数は36台で稼動率34%、土砂流出防止量は68tであった。2016年度は、稼動率40%を目標にし、更に800型を500型へ改良し、処理水をよりきれいにする装置と水質監視盤を増やしたい。今年度も環境関連情報の発信や環境に配慮した商品の普及に努める。	2016年度は252tの土砂流出を防止した。前年度は68tであり、270%増加した。今年度は濁水処理設備の稼動率が高く、さらに他社の濁水処理設備も利用して処理した為と考えられる。今後は更に研鑽を積み、濁水処理事業をより充実させていくと共に、環境保全事業の拡充を図っていきたい。

環境方針③

方針	2016年度の環境活動計画	2016年度の取組結果と評価
沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組みます。	(1)養殖サンゴの苗の移植放流活動に取り組みます。濁水処理設備を1台納入する毎に養殖サンゴの苗を1本移植放流し、設備を使用して頂いたお客様に、移植したサンゴの写真を添えて「海からの感謝状」を届ける。2015年度は47本、これまでに333本移植放流した。2016年度は50本を目標にしたい。	2009年1月から「海の種」の協力により、養殖サンゴの苗を海へ移植放流する活動を行っている。2016年度は50本移植し目標を達成した。これまでに合計383本を移植放流した。今後も、環境保全事業を充実させると共に、広報活動にも力を入れていきたい。

環境方針④

方針	2016年度の環境活動計画	2016年度の取組結果と評価
オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。	<p>(1)電力</p> <p>①事務所の使用しない電気器具のスイッチをこまめに切る。</p> <p>②昼休み時間は事務所の電灯を消灯する。</p> <p>③電気器具のスイッチの近くに「節電」等を掲示し、社員の意識向上を図る。</p> <p>④事務所および休憩室の冷房の温度を28°C以上、暖房の温度を23°C以下に設定する。また、夏季は休憩室を使用する前に換気をして、熱を逃がしておく。</p> <p>⑤事務所・休憩室のエアコン、プリンタ等を交換時に省エネルギー型に入れ替える。</p> <p>⑥パソコンを使用していないときは電源を落とすなど、使用電力の削減に努める。</p> <p>⑦休憩室にLED照明の導入を検討する。</p> <p>⑧太陽光発電等自然エネルギーを利用した設備の導入を検討する。</p> <p>⑨必要に応じて、自動点灯式照明器具を導入する。</p> <p>⑩夏季は事務所入口には遮光ネットを設置し、地表温度を下げる取組をする。</p> <p>⑪エアコンの清掃をこまめにする。</p> <p>(2)水資源</p> <p>①節水コマの使用や蛇口レバーに工夫をするなどして、無駄を省く。</p> <p>②水漏れをふせぐ。</p> <p>③社員一人一人が節水を心がけるようにする。</p>	昨年度より、全体の使用量が1,614kWh(6.1%)増加した。これは、社員が3名(10%)増えたためと考えられるが、売上高の増加は4.3%にとどまった為、目標を達成する事ができなかった。今後も使用している電気器具等のスイッチをこまめに切り、昼休み時間は消灯する等、更に工夫を重ねて節電できるように取り組みたい。

<p>(3)紙資源</p> <p>①ファックスの受信・送信、保存文書などの電子化により、コピー用紙の使用を抑制する。</p> <p>②コピー用紙、名刺、トイレットペーパなどは再生紙を使用する。</p> <p>③社内会議ではプロジェクトを使用する等して、コピー用紙の使用を抑制する。</p> <p>④コピー用紙の裏紙をメモ用紙として再利用する。</p> <p>⑤社内で使用する資料等は、できるだけ両面印刷をする。</p>	<p>昨年度より投入量は3.6%増加した。</p> <p>昨年と比べて、コピー用紙、伝票の使用量が増加した。コピー用紙は、指定請求書用紙が複写式からエクセル書式への変更など、請求書の印刷回数が増えた為と考えられる。今後も、文書管理システム等の活用により、更なるペーパレス化で紙資源投入量の削減を図りたい。</p>
<p>(4)廃棄物排出量の削減</p> <p>①一般廃棄物の分別を徹底する。燃やすゴミ、再生利用(アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、ビン等)有価物(新聞、OA用紙、段ボール、雑誌)に分別し、有価分は、障害福祉サービス事業所ワークプラザ南風へ提供する。</p> <p>②乾電池は、できるだけ充電式乾電池を使用する。</p> <p>③マイボトル・マイ箸などを使用して、ゴミを出さないようにする。</p> <p>④コピー用紙の裏紙をメモ用紙として再利用する。(再利用した用紙もゴミに出さない)</p> <p>⑤事務所で使用する消耗品は、詰め替え可能なものを使用するように努める。</p>	<p>焼却発電は、昨年度より0.87%増加した。</p> <p>社員が3名(10%)増えたことを考えると、一人当たりの量は減少している。</p> <p>再生利用は、昨年度より27.4%減少した。</p> <p>有価物は昨年度より7.3%増加している。</p> <p>段ボールは昨年度より44.4%増加した。その原因として、消耗品購入が増えた事が考えられる。</p> <p>OA用紙が増加し、新聞・雑誌が減少したことは、計測ミスが考えられる。</p> <p>今後は分別の徹底と計測を正確に行い、ゴミ減量化に取り組みたい。</p>
<p>(5)グリーン購入</p> <p>①事務所内の備品は、グリーン購入チェックリストを作成し、環境に配慮したものとするように努める。</p> <p>②チェックリストを定期的に見直す(3月・9月)</p>	<p>社内で使用する「紙」は再生紙を使用、「事務用品」などは詰替え用を使用するなど、品質や価格だけではなく環境への影響ができるだけ小さい製品を選び、グリーン購入に取り組んでいる。今後も、環境に配慮した商品の購入に努めたい。</p>

環境方針⑤

方針	2016年度の環境活動計画	2016年度の取組結果の評価
	(1)電力 ①高圧洗浄機の適切な使用を心掛ける。 ②作業場の使用していない電気器具のスイッチをこまめに切る。 ③必要に応じて、自動点灯式の照明器具を導入する。 ④使用しない電気器具は撤去する。 ⑤作業場の使用しない電気器具は、コンセントを抜くようにする。	昨年度より宮平 A ヤードで 37.5%、友寄ヤードで 6.6% 増加し、目標を達成できなかった。 昨年と比較して、ヤード内での作業・整備する人員が増えた為、扇風機やスポットクーラー等の使用量が増えたと考えられる。友寄ヤードは濁水処理設備の稼働率が高かったことにより増えたと考えられる。
使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。	(2)燃料 ①車両および建設機械には、適切な燃料を使用する。 ②車両および建設機械の不必要的アイドリング、空ふかしの禁止。 ③安全運転を徹底し、急発進、急加速、急停止などを極力避け、適切な車間距離を保つ。 ④配送車両の過積載をしない。 ⑤車両の日次点検(オイル・クーラント・タイヤの空気圧)を行う。 ⑥パソコン等で地図を確認して、適切な配送ルートをとる。 ⑦燃費効率が悪い車両の入れ替えを行う。 ⑧エコドライブ講習会を年 1 回以上実施する。	お客様の使用量が減少したため、目標を達成できた。 燃費の悪い車両を廃車したこと、さらに燃費が良くなった車両が増えたことも要因と考えられる。 燃費がよくなったのは、エンジンをしっかり切って配達・引取を行ったことや適性ルートで配達・引取を行うなど社員の意識が向上したことが要因と考えられる。 今後も各車両別の給油量と走行距離を記録し、燃費効率が悪い車両の入替を行っていきたい。
	(3)水資源 ①できるだけ雨水タンクに貯水した水を使用する。 ②機械等の洗浄水は、濁水処理設備で処理し再利用する。 ③友寄ヤードに雨水タンクの新設を検討する。 ④仮設トイレなどの洗浄に高圧洗浄機を使用することによって、水の使用を少なくする。 ⑤雨水タンクへ流水計の設置を検討する。	2015 年度と比べて 9.4% 増加し、目標を達成できなかった。濁水処理設備とコンテナハウスの稼働率が高かったため、納入前の整備点検の水道使用量が増加したと考えられる。 今後も雨水や処理水の利用により、節水に努めていきたい。
	(4)廃棄物排出量の削減 ①廃棄物の分別を徹底し、出来るだけ有価物(鉄くず、廃油、バッテリ等)を増やすように心がける。 ②バックホー等に付着する泥をできるだけ現場で落とすなどして、自社に持ち込まない。	今年度は 2015 年度と比べて全体的に増加した。これは、ヤード縮小に伴う整理整頓による廃棄物の発生が多かったことが原因と考えられる。 今後も「機械・設備の点検」を適切に行い「資源の再利用」、「廃棄物の分別」などを徹底し、廃棄物の削減に取り組みたい。

(5) グリーン購入 車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努める。 ① 車両および機械等を購入する際は、環境への負荷が少ないものを選ぶ。また、グリーン購入製品リストを作成し、環境負荷低減型商品の導入を進めていく。 ② 商品別の製品リストを作成する。	お客様へ環境にかける負荷が少ない商品を提供するため、環境負荷低減型商品の導入に努めてきた。昨年度は発電機をより環境に負荷が少ない極超低騒音型へ3台更新した。また、国土交通省排出ガス対策型建設機械3次基準値をクリアした0.1バックホー2台、0.2バックホー1台を導入した。今後も環境に配慮した製品を選定し、グリーン購入を進めていきたい。
--	---

環境方針⑥

方針	2016年度の環境活動計画	2016年度の取組結果と評価
化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。	(1)関係法令や規則を遵守するため、管理方法や取扱い基準をまとめ周知する。	薬品保管庫内に「薬剤数量管理表」及び「薬剤の取扱い基準」を掲示し、薬剤の数量管理や取扱いを適切に行うようしている。
	(2)当社で取り扱う化学薬品の特徴や取扱いについて社内学習会を行う。(年1回)	2016年11月15日「化学物質の危険有害性と緊急対応」について社内学習会を行った。

環境方針⑦

方針	2016年度の環境活動計画	2016年度の取組結果の評価
持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。	(1)環境問題について社内学習会を行う(年2回)	2016年10月4日「温室効果ガス(二酸化炭素)」について社内学習会を行った。年2回実施の計画であったが、1回のみであった。次年度は事前に計画し、実施したい。
	(2)お客様、取引先等へ環境活動レポートを配布する。また、ホームページやラジオ番組、CM等を活用して、環境情報を提供する。	沖縄県産業まつりの「同友会・輝く見本市」に出展し、環境レポートを約60部配布した。また、ラジオ番組やCMを通して、当社の環境への取組や情報を提供した。
	(3)環境フェア等へ出展する。	2016年10月21日～23日「同友会・輝く見本市」に参加し、濁水処理設備の紹介や環境活動レポートの配布等を行った。

環境方針⑧

方針	2016年度の環境活動計画	2016年度の取組結果と評価
環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。	(1)環境関連法規のとりまとめを行ない、遵守状況を毎年3月と9月に確認する。	2016年3月16日と10月31日に確認を行った。環境関連法規は全て遵守されている。
	(2)環境関連法規についての社内学習会を行う(年1回)	2016年度は実施できなかった。次年度は事前に計画し、実施したい。

環境方針⑨

方針	2016年度の環境活動計画	2016年度の取組結果と評価
<p>全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。</p>	<p>(1)環境保全活動について、責任と権限を明確にした実施体制を構築する。また、定期的に社員教育を行ない、社員のレベルアップを図る。</p> <p>①6ヶ月に一度、全社ミーティングでエコアクション21の取り組み状況を確認し、改善点等について検討する。(年2回)</p> <p>②環境委員会を定期的に開き(毎月1回)、環境委員のレベルアップを図る。</p> <p>③エコドライブ講習会など外部講習会に参加する。</p>	<p>エコアクション21の取組を始めた2006年度から、責任と権限を明確にした実施体制を構築し、環境保全活動をすすめてきた。</p> <p>①2016年8月2日、11月29日に環境活動レポート2015年度版について、活動報告と説明を行った。</p> <p>②2016年度は環境委員会を11回開いた。</p> <p>③エコドライブ講習に4人参加した。次年度も計画を立てて、参加したい。</p>

【4】11年間の環境活動の取組結果

表4に、当社が環境活動の取組を始めた2006年度から11年間の取組結果を示す。

表4. 11年間の取組結果

項目	単位	'06年度	'07年度	'08年度	'09年度	'10年度	'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度	'16年度
購入電力量	KW	34,637	30,645	28,976	29,888	30,846	28,672	26,593	27,700	26,338	26,590	28,204
総エネルギー投入量	購入電力 MJ	340,482	301,240	284,834	293,799	303,216	281,846	261,409	272,291	258,903	261,380	277,245
	化石燃料 MJ	4,278,362	4,280,260	3,469,190	2,840,798	3,237,059	3,343,952	3,642,502	3,820,325	3,652,583	3,419,962	3,249,145
総物質投入	紙資源投入 kg	273	259	228	242	229	160	303	248	278	258	267
水資源投入量	m ³	1,014	869	821	749	726	878	754	825	879	824	907
温室効果ガス排出量	購入電力 (排出係数) CO ₂ kg—	32,282 (0.932)	28,622 (0.934)	27,411 (0.946)	27,826 (0.931)	28,841 (0.935)	26,722 (0.932)	24,013 (0.903)	23,767 (0.858)	21,492 (0.816)	21,325 (0.802)	22,534 (0.799)
	化石燃料 kg—CO ₂	291,563	291,549	236,143	193,626	220,223	227,556	248,027	260,246	248,718	232,731	221,095
	合計 kg—CO ₂	323,845	320,171	263,554	221,452	249,064	254,278	272,040	284,013	270,210	254,056	243,629
廃棄物等総排出量	一般廃棄物 (再生利用) kg	0	788	1,001	516	1,280	1,350	1,298	1,483	1,103	1,504	1,546
	一般廃棄物 (焼却発電) kg	0	1,041	971	720	740	945	932	906	930	1,069	1,078
	産業廃棄物 (再生利用) kg	0	0	25,800	17,700	44,400	31,900	48,600	16,624	56,840	25,800	38,200
	産業廃棄物 (単純焼却) kg	35,100	33,500	31,700	25,300	30,800	19,600	15,600	13,280	15,930	13,600	16,000
総排水水量	公共用水域 (m ³)	1,014	869	821	749	726	878	754	825	879	824	907
社員数(内パート)	人	21(2)	22(2)	23(2)	23(2)	24(2)	27(2)	27(2)	29(2)	29(2)	28(1)	31(0)
売上高	百万円	352	362	360	347	341	337	351	354	376	368	384

※¹ 購入電力の排出係数は、沖縄電力の値を用いる。

※PRTR法による対象物質の取扱いはありません。

ただし、ポリ塩化アルミニウム、高分子凝集剤、希硫酸、苛性ソーダ等を扱っているので、それらについては薬品庫に保管し、数量管理を行っている。

図 1. 過去 11 年間の総エネルギー投入量及び温室効果ガス排出量（売上高百万円当たり）

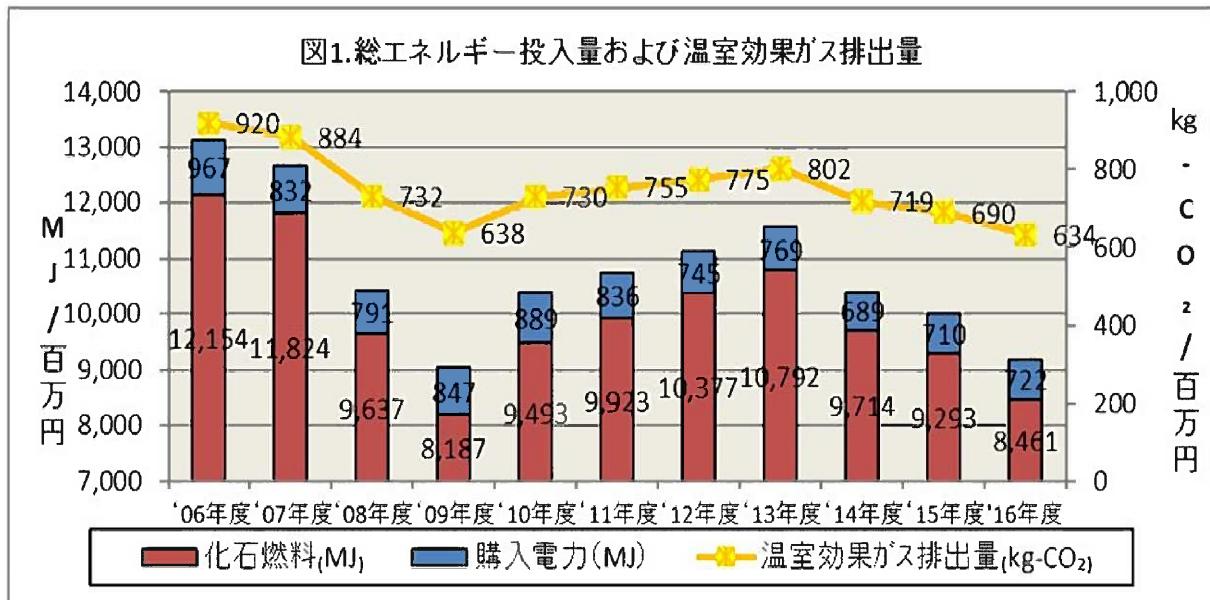


図1より、温室効果ガス排出量は、年度によりバラつきはあるが、全ての年度で取組を始めた2006年度を下回っている。また、2016年度はこれまでの最低値を出すことができた。2006年度の排出量を11年間続けた場合と比較して、この11年間で605,982 kg CO₂の排出を抑制することができた。

図2.過去 11 年間の一般廃棄物排出量(売上高百万円当たり)

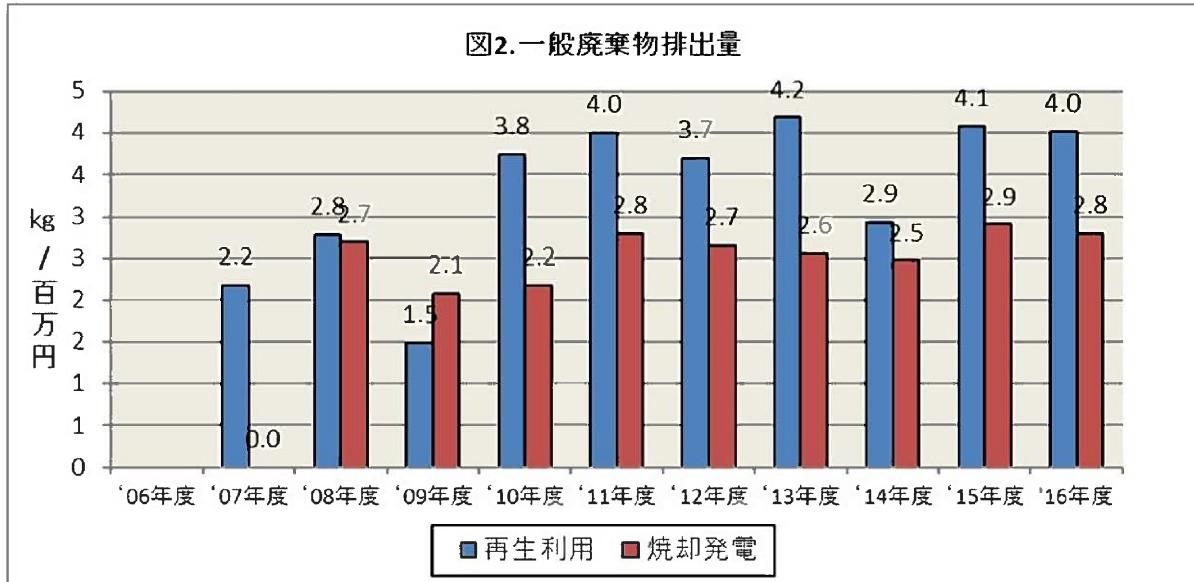


図2より、2010年度以降は分別の徹底が進み、再生利用・焼却発電とも安定している。より向上させるためには、もう一步進んだ取り組みが必要であると思われる。

図3.過去11年間の産業廃棄物排出量（売上高百万円当たり）

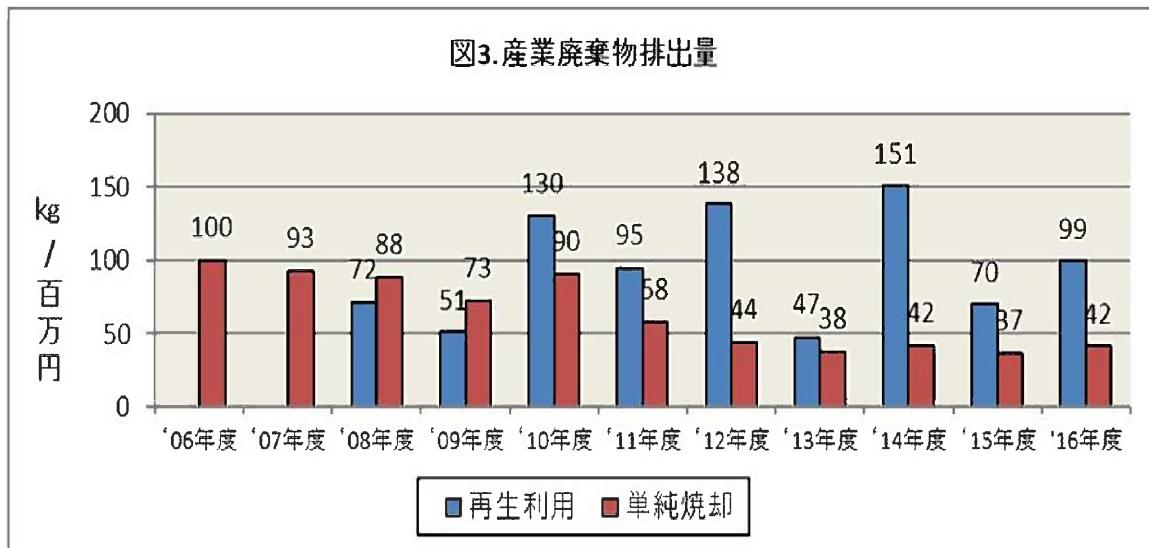


図3より、単純焼却は低い値で安定しているが、再生利用は年度によりバラつきが見られる。

単純焼却が低値で安定していることから、分別の徹底が進み、リサイクル率が向上してきていると考えられる。

図4.過去11年間の紙資源・水資源投入量（売上高百万円当たり）

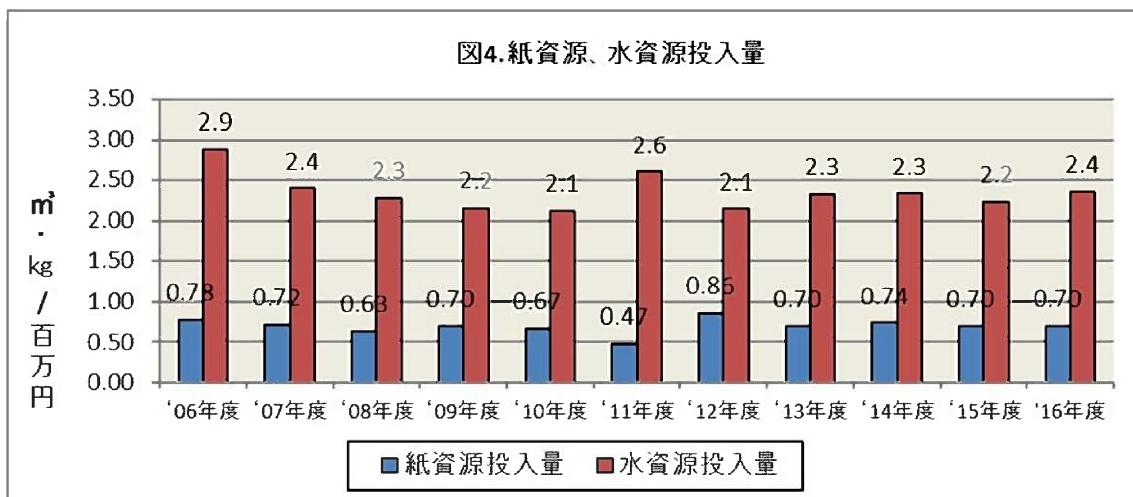


図4より、紙資源・水資源とも、大きな変動はみられない。

表 5 に養殖サンゴの苗の移植放流数を示す。

表 5.養殖サンゴの苗の移植放流数

申し込み年月	本 数	移植年月日
2009 年度合計	17 本	
2010 年度合計	57 本	
2011 年度合計	62 本	内社員分 27 本含む
2012 年度合計	28 本	
2013 年度合計	38 本	
2014 年度	2014 年 4 月	18 本 2014 年 8 月
	2014 年 9 月	16 本 2015 年 1 月
	2014 年 10 月	5 本 2015 年 2 月
	2015 年 1 月	10 本 2015 年 5 月
	2015 年 2 月 (35 周年)	35 本 2015 年 8 月
2014 年度合計		84 本
2015 年度	2015 年 5 月	7 本 2015 年 8 月
	2015 年 7 月	6 本 2015 年 10 月
	2015 年 9 月	12 本 2016 年 7 月
	2015 年 11 月	4 本 2016 年 7 月
	2015 年 12 月	6 本 2016 年 7 月
	2016 年 1 月	12 本 2016 年 7 月
2015 年度合計		47 本
2016 年度	2016 年 4 月	11 本 2016 年 7 月
	2016 年 7 月	12 本 2016 年 12 月
	2016 年 10 月	14 本 2016 年 12 月
	2017 年 1 月	7 本
	2017 年 2 月	6 本
2016 年度合計		50 本
合 計		383 本

2009 年度から「海の種」さんの協力を得て養殖サンゴの苗の移植放流活動を行っている。8 年間で 383 本の移植放流を行った。

【5】次年度の主な活動計画

環境方針①お客様へ、できるだけ環境にかける負荷が少ない商品を提供するように努めます。 ・極超低騒音型・インバーター式発電機と LED 照明器具の導入を更にすすめます。
環境方針②濁水処理設備の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。 ・お客様のニーズに対応した濁水処理設備や計測設備の開発・製造をすすめます。
環境方針③沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、「海の種」の協力により養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組みます。 ・引き続き、濁水処理設備を 1 台納入するごとに、養殖サンゴの苗 1 本を移植放流する活動に取り組みます。
環境方針④オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。 (1) 電力…電気器具のスイッチをこまめに切り、昼休みは消灯する等工夫を重ねて節電に取り組みます。 エアコンのメンテナンスを行います。 (2) 水資源…節水コマの使用や蛇口レバーに工夫をするなどして、無駄を省きます。 (3) 紙資源…文書管理システム等の活用により、更なるペーパレス化で削減を図ります。 (4) 一般廃棄物…分別を徹底し、計測の精度を上げる取組をします。 (5) グリーン購入…チェックリストを作成し、環境に配慮した商品の購入に努めます。
環境方針⑤使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。 (1) 電力…高圧洗浄機等の適切な使用により、節電に取り組みます。 (2) 燃料…安全運転を徹底し、急発進、急加速、急停止などを極力避けます。 エコドライブ講習会に未受講の社員を参加させます。 (3) 水資源…雨水や処理水の利用を徹底します。 (4) 廃棄物排出量の削減…資源の再利用、廃棄物の分別を徹底します。
環境方針⑥化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。 ・化学物質の適正な管理を徹底します。 ・化学物質の特徴や取扱いについて社内学習会を行います。(年 1 回以上)
環境方針⑦持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。 ・環境問題について社内学習会を行います。(年 1 回) ・お客様、取引先等へ環境活動レポートを配布します。また、ホームページやラジオ番組、CM 等を活用して環境情報を提供します。 ・中小企業家同友会の「業種四部会見本市」に出展します。
環境方針⑧環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。 ・環境関連法規のとりまとめを行ない、遵守状況を 3 月と 9 月に確認します。 ・環境関連法規についての社内学習会を行います。(年 2 回以上)
環境方針⑨全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。 ・全社員でエコアクション 21 の取組状況を確認し、改善点等について検討します。(年 2 回) ・環境委員会を定期的に開き、環境委員のレベルアップを図ります。(月 1 回以上) ・エコドライブ講習会などの外部講習会に参加します。

【6】環境関連法規等への違反、提訴等の有無

環境関連法規への違反、提訴等は 1987 年 5 月設立以来、1 件もありません。

【7】代表者による全体評価と見直し

エコアクションに取り組んで 10 年が過ぎ、日々の活動を通して環境に対する意識は向上してきたように思います。

レポートの中身も年々充実してきており、見た目もスッキリして見やすくなっています。ほとんどの目標が達成できていないのは残念ですが、ひとつひとつの項目の考察はしっかりと考えられており、よくできていると思います。

環境委員会のメンバーには、忙しい仕事の中、毎日の計測作業やレポート提出のための資料集め・考察会議など、感謝いたします。

10 年が過ぎた今、あらためて考えてみましょう。

- ・社員全員が環境に対する意識を高めるためには何をするべきか？
 - ・環境委員だけの負担になっていないか？
 - ・レポート作りのための作業になっていないか？
 - ・未来へ残すために必要なことは何なのか？
- などなど。

大事なことは、無駄な事はなくして、必要とされるものに労力を集中させていくことですので、その意識を全員で共有するということをあらためて考えなくてはなりません。

そのために何が必要かを本気で話し合う始まりの年にしていきたいと思います。

最後に、今年も様々な自然災害があり、多くの人が被害に遭われました。

早い復興を願うとともに、地球に住むものとして未来へ残す努力を惜しまないことを約束いたします。

平成 29 年 9 月 20 日
代表取締役 宮城 靖一